

写真説明 旧雨天体操場とり壊し後に完成したテニスコート二面（写真提供平和写真館）

会長に井深氏就任

去る五月七日、竹中重之前会長は葉石の効もなく逝去されました。慎しんでご冥福をお祈りいたします。

その後八代副会長が会長代行として会の運営に当られ本年度第一回理事会が七月六日母校会議室で開かれた。本年度の総会その他の審議後、会長推選考委員会を作り、林弘司季員長のもとで副会長であった井深氏を推選し総会に図ることになった。

八月十七日の総会で井深氏の会長就任を満場一致で承認した。

なお、井深氏の会長就任にともない、副会長五名が四名に減員になったが、そのままで補充しないことも併せて承認された。

井深透氏は本会第一回の卒業生で、東海砲石工業KK社長、その他各方面で活躍されている。

◎昭和四十九年度総会報告

八月十七日（土）午後二時より、岐阜市のホテルニューガラカンで開催。八代副会長代行挨拶、豊田校長挨拶。その後井深新会長承認、会長挨拶のうち議事に入った。会計決算報告、入会金九百円を千五百円に値上げするの件、明年度予算案、更に規約第三条に「会員の顕著な功績に対する顕彰」の追加、その他字句の改正をそれぞれ承認した。

更に、明年度の事業として名簿を発行することを決定。

ついで、永年母校職員で本会事務局でご活躍いただいた国枝愛司氏を常任理事に推選した。その後特に発言があり、規約には各卒業年次毎に理事を選出するところが理事会等に出やすい人と理事を交替する方策はないものかという提案があり、今後その趣旨に添つて検討することになった。

総会終了後、懇親会に先だって、本校職員の酒井弘太郎先生編集のハーミリカラーフィルム「母校」を観賞した。五十周年記念行事を中心とした見事な記録で、あちこちでホウホウという感嘆の声が聞えた。その後懐しい十余名の恩師を交え、総勢六

同窓会会长
井深透

朝夕はめつきり冷えて参りましたが、皆様におかれましては益々ご健のことと存じお慶び申しあげます。

かねてより竹中前会長ご病臥の由、案じておりましたところ、去る五月突然の訃報に接しましても本年四月より同窓生である気鋭の豊田義道校長を迎えて安心いたしておりましたところ、八月の総会で思いがけずも会長のご指名にあすかり重責を荷うことになりました。

微力ながら、お受けいたしました以上今後は更に皆様のご期待に添うよう一意努力する所存でございますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

本会の会員も今では一万四千余名の大所帯となりまして、仲々行きわたった活動をいたしますのも困難なことと思います一方、何か相互の連帯を高め、更には若い後輩を育て、少しでもお互いに社会に役立つような役割を荷い合いたいものと存じております。

来年度は本会の主事業でもあります名簿の発行が予定され、名簿委員会も発足しすでにその準備も進められておりますが、これもひとえに皆様のご協力なしにはできないことでございまして、併せてよろしくお願ひいたします。

終りに会員各位のご多幸とご発展をお祈り申しあげてご挨拶といたします。

ご挨拶

掲

学校長 豊田義道



本年四月の異動によって岡らずも本校校長という名譽ある重責を荷なうこととなりました。五十有余年の輝かしい歴史と伝統を誇る本校に職を奉じることは光榮これに過ぎるものではなく、いよいよその責任の重大さを痛感するとともに、ただ浅学菲才の身その器に非ざることを憂えております。

さいわい本校は私にとって母校であり前任校でもあります。同窓会を始めPTA、地域社会の方々にも知り合いが多く心強くも思つています。四月以来すでにこれらの方々から数多くの励ましの言葉やご援助も賜わつております。こういった皆様のご期待にそなつても、微力ではございますが母校の飛躍的発展を目指して渾身の努力をかたむけたい所存であります。

ご承知のごとく、本校は創立五十周年を契機に校舎の全面改築もはとんど完成し、全容を一変して県下でも稀にみるすばらしい施設設備が完備されました。また一万坪の校庭には数十年の歴史を刻む松林を始め、先輩の手による数々の老樹が亭々として空高く聳え、すばらしい教育環境を形づくりております。ときあたかも高等学校に、新学区制が実施され、本校は単独選抜校として地域社会との期待にこたえるべく、全職員一丸となつて本校教育の向上発展に取り組んでおります。

同窓会の副会長として、誠によく面倒をみて

本年四月の異動によって岡らずも本校校長という名譽ある重責を荷なうこととなりました。五十有余年の輝かしい歴史と伝統を誇る本校に職を奉じることは光榮これに過ぎるものではなく、いよいよその責任の重大さを痛感するとともに、ただ浅学菲才の身その器に非ざることを憂えております。

生徒も純真にして質実剛健、創立以来の有形無形幾多のすばらしい伝統を受けつぎ、これを更に発展させようと真摯な日常活動に励んでおります。

私はこういった恵まれた教育諸条件の中に

あつて、今最もやらなければならぬ喫緊のこととは、さらに教育内容の充実発展を期すことであると確信いたしております。すなわち近年向上的跡目覚ましい大学進学を更に伸長させることであり、スポーツを振興して生徒の健全なる身心の発達を促進していくことであると思ひます。

同窓生の皆様、本校のこういった現況と使命を御理解下さいまして、この上とも格別なご援助ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

略

竹中会長を偲んで

副会長 八代 春雄

同窓生の諸兄姉におかれましては、竹中重之氏が去る五月七日逝去されたことは既にご存じの方々もございましょうが、今こうして「同窓会便り」を通じて氏を偲ぶにあたつて改めて哀悼痛惜の念に堪えません。

創立四十周年、更には輝しい五十周年記念

事業を立派に完遂され、その間母校発展のために側面援助の労をいとわぬお姿や、気さくで事をすすめられたことは洵に心強いました。

また一昨年八月よりは吉田会長のあとを繼

かわつて豊田校長以下多数の諸先生をお迎えました。

(一) 中は前任校(敬称略)

豊田義道校長(恵那北高校長)森晃教頭(県教委指導部学校指導課)足立光祥(岐阜高)今木知寿(新任)加古与謝子(羽島高)河本幸彦(大垣北高)出島いよ(岐山高)後藤光昌(加納高)佐野健一(益田高)館度(岐山高)水野郁子(大垣商高)東谷俊勝(大垣北)小川博之(各務原高)高橋佐知子(岐阜西高)尾畠憲枝(多治見北高)谷章輔(大垣商)なお、山田孝子家庭科助手は八月退職。

(二) 中は前任校(敬称略)

豊田義道校長(恵那北高校長)森晃教頭(県教委指導部学校指導課)足立光祥(岐阜高)今木知寿(新任)加古与謝子(羽島高)河本幸彦(大垣第一女高・本校高普十回卒)加納芳樹(大垣第一女高・本校高普十回卒)高橋孝市(岐山高)谷川江美(東濃実高)成瀬みゆき(大垣第一女高)華井章裕(岐工高)林多貴子(大垣商・本高普十八回卒)松井弓夫(大垣北高)松浦勇(高山工高)松野光暢(大垣工)田口峯之(県立図書館)なお国江淳子(本高の家九回卒)十月より家庭科助手として就任。

玉学校長には中庭の造園、地下百米の水道揚げ工事、格技場の建築等母校の施設設備等の整備等色々ご活躍願つた。玉校長以下ご転出の諸先生にお礼を申すとともにご多幸を祈ります。

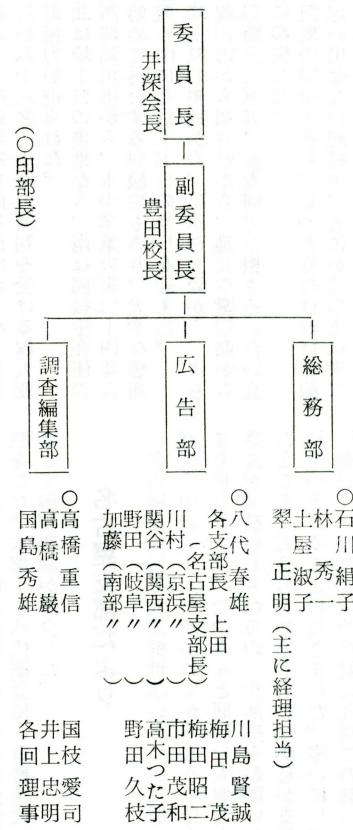
(一) 中はご退職またはご転出先。(敬称略)

玉信一校長(退職)河合敏緒教頭(益田南高校長)国枝愛司(退職)井上忠明(岐山高)河本幸彦(大垣北高)出島いよ(岐山高)後藤光昌(加納高)佐野健一(益田高)館度(岐山高)水野郁子(大垣商高)東谷俊勝(大垣北)小川博之(各務原高)高橋佐知子(岐阜西高)尾畠憲枝(多治見北高)谷章輔(大垣商)なお、山田孝子家庭科助手は八月退職。

☆本巣高校職員異動

名簿委員会発足

総会で名簿委員会の構成を一任された役員会では、その後役員構成を審議し、第一回名簿委員会を十月十九日(土)母校会議室で、名簿発行についての骨子を協議、その後三部会に分れて部会をもち、今後の取り組みを協議した。



名簿の作成を顧みて

国 島 雄 雄

筆者が母校の同窓会名簿の作成に携つたのは、昭和二十六年が最初である。それまで本巣中学・本巣高女には、それぞれ名簿はなかったが、高校に昇格、統合してからの名簿はなかったので、時の近藤校長により依頼をうけて作つたものである。この場合、中学と高女を上下に同年の卒業生を対照にして掲載し、現在のスタイルの基となつた。それ以後、三十年三十五年と作り、現在校に転勤後も三十年と四十五年の二回作成させて頂いたことは光栄の至りである。ことに五十周年に作つたものは索引をつけたのが特色で、母校の井上忠明氏らの協力によつたもので、名簿としては大きな前進であった。

しかし、名簿作りは何しろ一人以上の大學生の一人一人について動静を知るというることは至難なことであるだけに、完全なものを作り得ない。人から動静を聞いて訂正すると案外間違つていたりして批判されることもあり、傘屋の小僧と同じで骨を折つて叱られ、

分の悪い仕事である。ただ、筆者は人の名前を覚えるのが趣味であり、編集の仕事はもう四十年以上やつているので苦にならないこと

もう還暦の年となり物覚えが悪くなり、街で卒業生に会つても仲々名前が思い出せず、家へ帰るところ思い出すことがしばしばである。同窓生の異動は毎日あるもので、これをその都度記録しているから、案外多くの人を知つてゐる方かも知れないが、これとても全部の人という訳ではなく、やはり各回の理事の方

も、しつかりした名簿を作つて、これが友愛のきずなとして、また、これだけの卒業生があると、社会に貢献している人も多いだけに、後輩への發奮の刺戟となつてほしいものだと期待している。(昭和七年卒)

「広告募集」のための広告

名簿委員会では次の「お願い」文書をもつて、広告募集することになった。

お願い

本同窓会も現在では一万四千余名の会員を擁す大所帯になり、会員各位におかれでは、は

それぞれの方面でご活躍のことまことに慶賀に存じておられます。

さて、明年度は、本会の主事業であります会員名簿を五年ぶりに発行することになります。

名簿を廉価に会員的に配布致したいと念願しました。名簿を廉価に会員的に十分な基盤もな

く願しておりますが、財政的に十分な基盤もな

く、何卒この主旨事情をご賢察くださいまし

ます。名簿出版事業に格別のご後援ご協力くだ

さいますよう切にお願い申し上げます。

一、完成予定 昭和五十年七月

一、広告の規格と料金 左の三種類とし、凸版代金は別に実費をいただきます。

一頁二万円、半頁一万円、四頁五千五百円

一、広告申込方法 広告原稿に料金をそえて、お邪魔する会の代表者へお申込み下さい

み下さるか、直接本部へお申込み下さい。

一、申込の締切 昭和五十年二月末日

一、広告原稿 左のわくの中にお申込みの大きさでお書き下さい

き下さつてもけつこうです。



↑名簿外枠 21cm

↑内枠広告一頁の大きさ 11cm

1/2頁

→ 内枠広告一頁の大きさ

17.4 cm

↑5.5cm

1/4頁

→ 8.7 cm

→ 名簿外枠
15 cm

会員各位

昭和四十九年十一月
岐阜県立本巣高等学校同窓会
会長 井 深 透 敬具

同窓会だより

昭和49年11月1日

まことにクラス会はいいもの

私たちたちはテレビで「国盗り物語」が放送され、我が郷土岐阜の地が全國的に脚光を浴びる年に当り、我々を熱心に御教導下さった高橋巖先生、大場先生の公立高校退官を記念して、同窓会（同級会）を開くことを企画した。

熱意ある同級生大野正一郎君、林桂市君、小原悟君、中山暁雲君、豊田良吉君等と協議し、七月十五日（日）金華山を仰ぎ見る長良川清流のほとり（高級食堂ながら川）と合意し、松浦君、宇野君、篠田君、大平君、加納君を始め地元有志の御協力を得て、我々の生涯に記念に残る立派な同級会にしようとした。しかし我々の同級生は各界にめざましく躍しており、ある人は会社の社長、部長、課長に、又各界の会長や役員になり、公私共、働き盛りで大変多忙である。その上同級生は北は北海道から南は中国地方まで広く分散し、転居も多く、消息不明な人も多数あり、連絡に大変苦労した。

しかし現実の種々の障害を「人の和」で乗り越え、一時過半数をはるかにオーバー七割に近い八十六名の出席の通知を受ける程大変な御協力が得られた。

北は岐阜県の奥地から、南は同級生在住の最南端岡山市から、本中卒業以来二十四年ぶり始めて再会する同級生もあり、大変な感謝感激の中に七月十五日の当日を迎えた。

埼玉県の奥地から、東京や大阪から、さらには岡山市から福井県から、地元や愛知県からも勿論三五五、親友同志が相さそい合い会場に参集した。

白髪の同級生あり、じつと見なければ名前を思い出せない同級生、とにかく卒業以来二十四ぶり、風雪に耐え込んだなつかしい同級生の顔、ほんとうになつかしい気持で握手をし歓談にふける。定刻二時に同級生七十一名の大盛会である。

先ず最初記念写真をなごやかにとる。来賓として出席された高橋巖先生、大場先生、木野村先生を囲み、昔話に花を咲かせ、

大きいに飲み、うたい、昔なつかしい友が肩をたたき合い、懐旧談に、なごりつきない四方山話をよもやまばやしに日の沈むのを忘れ、有意義ななごやかな同級会だった。「感溢れて意つくさず」のクラス会だった。

エレクトロン（電子オルガン）の音に合せ、全員肩をくみ合つて「本巣中学校歌」

（仰げば尊し）を歌い、なごりつきない思いで、「螢の光」を合唱し散会した。

今思い出してもなつかしい友の顔、先生の笑顔が、走馬燈の様にかけめぐる。（昭和二十四年本中二十六回卒 高橋雄治）

名古屋支部総会

名古屋支部では昨年十二月一日、中村区広小路の広寿司本店で、忘年会を兼ねて、昭和四十八年度の総会を開いた。

幹事川瀬正一氏（中三・川瀬電機工業所社長）、高橋章氏（中九・大隅鉄工総務部長）らの骨折りにより、三十名余の参加者が盛会であった。

支部長上田文男氏（愛知医大教授・医博）を推挙、満場一致で決定。

その後、自己紹介に続きなごやかに会食飲談をした。本部より八代副会長と事務局代表として国技教諭が参會した。

名古屋支部総会

名古屋支部長で大変御世話いただいた第一回生竹中忠夫さんが逝かれてからもう一年あ

まりになります。竹中さんと同級の大塚清之さんは閑職におられるので支部長をお願いしたところ、どうしためぐりあわせか私が支部長をつとめることになりました。幸いにして

川瀬君（三回）、高橋章君（九回）の御二人たところ、どうしためぐりあわせか私が支部長をつとめることになりました。幸いにして

川瀬君（三回）、高橋章君（九回）の御二人が大変熱心にお骨折りいただいておりますので、この二人におんぶして今後やつていただき存じます。

昨年度忘年会を兼ねて集会を開き、五百名以上に通知状を出しましたが、返信を得たのは半数にも満たない結果でした。今年は名簿

の整理をいたし、本部とも連絡を密にして本支部としての使命にこたえたいと考えています。

以上名古屋支部の近況をお知らせします。

（二回生 上田文男）

京浜支部だより

激動する世相、文化的生活の無味と騒音の中で生活する者は、余程心がけて「心の余裕」をもつことが必要であることはあらためて言ふまでもありません。京浜地区的同窓諸君は多少の差はあるものの共通したこの心境にあると思います。この心の余裕、心の慰めに故郷の山河、楽しかった本巣時代の思い出が何よりもあります。

京浜地区には数百人の同窓の方が居られますが身辺多忙のためか、心の思いは共感しないがらもあまり一同に集る機会がありません。

従つて京浜だよりとして内容ある便りが出されませんのが何よりも残念です。

然し中川、松原両君（四回卒）初めて熱心な幹事諸君が居られますので今後を御期待下さい。

末筆ながら同窓の諸兄に宣しく御伝へ下さり申しあげます。

（一回卒 川村福二）

恩師訃音

○山田明郎さん（高五卒・現龍谷大講師）

○武藤雄二先生（昭和二十九年國語担当）

○寺田巖さん（中十二回卒・前本巣高校PTA会長）

○多田千代子さん（本高女、五回卒）

○福井日新賞、続いで五月三日岐阜県知事賞をそれぞれ受賞されました。

○寺田巖さん（中十二回卒・前本巣高校PTA会長）は「第五回県みどりの祭り」で、郷土の縁化功労者として、「縁化功労知事表彰」を受けられました。

同窓生による

揖斐郡教員同窓会例会

昭和四十八年度の例会が、一月二十六日（土）が、大野町の「魚千代」で開かれ、約五十名の参加者で盛会であった。

大垣中学校長河村甚市氏が退職されるにあたって、次期会長として、大野小校長粟野伝氏に決定、世話役として谷汲中の松久敏郎氏ほか八幡小学校正一氏、大野小小森明美氏ら

があたることになった。

なお、山田さんは昭和四十二年から二年間インドのナーランダ大学から招かれて講義をされていた。

アフガニスタンへ

本年度の総会をひかえた七月の理事会で、例年のように周知方法が議題になり、今回は岐阜放送で二〇秒スポットで広く電波で流すということがなつた。いかがでございましてでしょうか。

時に「雲を擗む」ような気にもなりますが、明年度は名簿を発行することになり、事務局としては「藁をも擗む」思いで各位のご協力を願っております。なにとぞよろしく。

告 知 版